

# カヌー・スラロームセンター 事業計画書 概要版

## 年間来場者 10 万人達成

ラフティングなどのレジャー利用を促進、公園との連携を確実に実施します。  
 ◆ 周辺施設の既存の施設の特徴に本施設の特徴を加え、にぎわいを創出  
 ◆ 周辺施設一体での相乗効果を生み出します。

### 既存の資源の特徴

多目的広場  
水族館・鳥類園  
散策路・樹林  
環境共生・保全  
宿泊

### 本施設の特徴

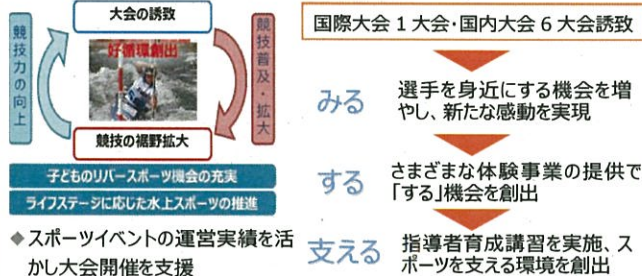
ラフティングツアー  
トップ選手の利用  
多様な体験教室  
イベントスペース  
キッチンカー

相乗効果

種類	来場者数
大会	9,300
強化練習	4,300
水難訓練	1,300
ラフティング	35,900
個人利用	17,700
教室	2,200
イベント	6,900
フィニッシュプールレジャー	22,400

## 大会の誘致

各競技団体と連携し、カヌー・スラロームをはじめ複数種目の大会を積極的に誘致するとともに大会時に集客イベントを実施し、「する」「みる」「支える」水上スポーツの愛好者の裾野を広げます。



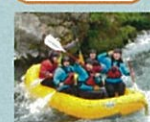
## 基本方針

日本で初めて建設される、人工カヌー・スラローム施設の特性を最大限に活かし、社会に有効な施設として、活用し続け、発展し続けることが出来るよう、効果的で効率的な、施設運営・維持管理を行います。  
 その中で、葛西臨海公園・葛西海浜公園など関係ある施設や組織と連携し多目的な活用を図り、にぎわいを創出します。また、大会の誘致、練習会場として活用を競技団体と連携しながら進めることで国際競技力の向上、競技の普及を目指します。

競技普及



にぎわい創出



## 効率的・効果的運営管理



社会に有効な施設として活用し続け、発展し続ける

## 効率的・効果的な施設

利用ニーズを踏まえた時間割と施設を活用しつづける運営で水上競技の普及と賑わいの相乗効果

- ◆ 早朝を競技者、日中は一般利用客という時間設定
- ◆ ゾーニングで多目的利用を両立させ、好循環を創出
- ◆ 冬期の水難救助訓練
- ◆ 需要の少ない1、2月を休館し定期メンテナンス
- ◆ 施設開場前点検の徹底



## 情報発信

体験事業活性化のための PR 活動、都市型施設の魅力を発信します。



多様な媒体で多層の利用者を網羅

- ◆ ホームページ・SNS
- ◆ 施設プロモーションビデオの作成
- ◆ 広報東京都
- ◆ パンフレット・チラシ（4ヶ国語）
- ◆ 等の旅行誌・情報誌
- ◆ テレビ・ラジオ放送

( 関心表明取得 )

## 競技活動拠点

- ◆ NTC 競技別強化拠点施設の申請へ協力
- ◆ 近隣カヌークラブの活動支援で地域に浸透
- ◆ 早朝・夕方にカヌー・スラローム専用時間を設定
- ◆ 日本カヌー連盟や地域競技団体などと連携

【関心表明取得団体】

- 東京都カヌー協会
- 青梅市カヌー協会
- 江戸川区カヌー協会
- ラフティング協会



## 水上スポーツ・レジャーの普及

◆ 新しいスポーツ文化の創出  
 スポーツの体験を提供する事から始まり、愛好者・競技者を拡大し、地元からメダリストを輩出することを目指します。  
 また、一緒に活動ができるターゲットごとに事業を実施し、だれでも目的にあった体験ができるようにプログラムを構成します。

### Step 1

体験機会・集客イベント



### Step 3

競技者の拡大



### Step 2

愛好者の拡大



### Step 4

地元からメダリストを輩出



- さまざまな世代が楽しめる場を創出
- 水上スポーツやレクリエーションの体験でコミュニティを拡大し、競技者の増加を促進

ターゲット	事業(教育)
子ども	● 体験教室 ● 自然学習活動 ● 親子教室
女性	● 体験教室 ● クラブ活動 ● ラフティング ● 集客イベント
働き世代	● 体験教室 ● クラブ活動 ● ラフティング ● 集客イベント
障がい者	● 体験教室 ● 自然学習活動
指導者	● 指導者講習会 ● 水難訓練講習会

- 施設を余すことなく活用



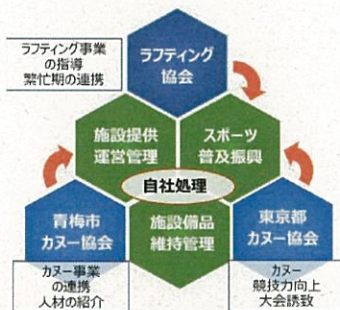
## 事業を「支える」 効率的・効果的運営管理のポイント



### 施設を一本化

当施設は、**複合機能を持ち**、時間によって、行われる事業が異なり、それぞれに、専門の人材を雇い入れると、人件費のロスが大きくなりコストがかさみます。私たちは業務を縦割りにするのではなく、**一本化して、マルチに活躍できる人材を採用・教育**します。

また、それぞれの事業の**専門性を確保**するため、人材紹介、立ち上げ時の事業の指導、通常期の応援などの部分を**専門団体に依頼**し、確実な事業運営管理を実施します。専門団体とは、公募の段階から協議を進め、確実にバックアップいただけるお約束をいただき、関心表明書をいただいています



### 利用の調整

#### 予約検討時期を踏まえた使用申請

国際大会などは 3 年前に利用の確定が必須で、学校行事も 1 年半前には予約の確定が必要です。優先受付制度の基準に基づき利用受付を実施しますが、例外も事前に検討し、積極的に受け入れを行います

利用形態	大会専用使用		その他専用利用			個人利用					
団体など	国際大会	国内大会	競技運動	消防	撮影	修学旅行	企業研修	学校外	選手	愛好家	個人
予約検討期間	3年前に決定	3年周期で計画	1年前	利用直前		1年半前		月単位	週単位	単位が多い	

#### 競技大会とラフティング等の予約が重複した場合の利用調整方法

7月～9月以外は優先利用の受付の通りに競技大会を予定し、6か月前に、空いた時間で時間割を作成し、一般利用、ラフティング利用を決めています。6か月以降は、基本的に大会受付は行いません。



### 休館日及び開場時間

利用しやすく、効果的で効率的な開場時間、休館日を実現します。

#### 休館日及び開場時間の設定で考慮したポイント

##### 関係団体や競技者のヒアリングによる

- ◆ 競技者は、早朝・夕方を利用しやすい。
- ◆ トレーニングは、年間通して行われる。
- ◆ 冬期は、気温低下に伴い一般利用客の需要が落ち込む。
- ◆ 駐車場は、利用開始に余裕を持って開場していると使いやすい。

##### 施設・設備運営上の効率性による

- ◆ ポンプの効率稼働のため、冬期の月曜日を休館として利用を集中させる。
- ◆ 定期清掃と保守点検は、利用需要が低い冬期に休館を設けて実施する。

施設利用者（団体）のニーズ、設備の効率的な運転を両立させ、**休館日と開場時間を設定**します。

#### 【休館日の設定】

施設区分	施設名称	休館日
競技施設	競技コース	年末年始及び1月・2月、冬期閉場期間の毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
施設	ラフティングコース	年末年始及び1月・2月
施設	水門プール	年末年始及び1月・2月
施設	観水エリア	年末年始及び1月・2月
船庫（貸出庫）		保管は通常利用可（年末年始閉場不可）
トレーニング室		年末年始（12/30～1/3）
会議室		年末年始（12/30～1/3）
駐車場		年末年始（12/30～1/3）

#### 【開場時間の設定】

施設区分	施設名称	一般開場時間	
		通常期	冬期
競技施設	競水107船庫	7時から18時	7時から17時
トレーニングルーム		9時から17時	8時から19時
会議室			
駐車場		6時から20時	6時から20時



### 競技施設運営業務

利用の目的、利用者の技能による明確なエリア分け、利用ニーズに沿った利用時間枠を設定することで、すべての利用者へ安全で快適な利用を提供します。

【個人利用枠（通常期）】1枠10名以上のみ利用可能（☆…土日は人数に関わらず利用可能）

利用形態	1セッション	1日回数	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時
カヌースラローム ゲートあり	60分	5セッション	①	②☆	③								④	⑤
共用 ゲートなし	90分	4セッション					①	②	③	④				
ラフティングツアー (必須自主事業)	90分	4セッション					①☆	②☆	③☆	④☆				

- ◆ カヌー・スラロームの専用時間と共用利用時間に区分した利用時間枠を設定
- ◆ ラフティングツアー以外の利用枠は利用の下限人数を設けて受付を調整し、利用集中を図り、ポンプ稼働時間を削減
- ◆ カヌー・スラロームの専用時間はコースに競技用ゲートを設置し、練習環境を整備
- ◆ 共用利用時間はゲートを設置せず、カヌー・スラロームの他、ラフティングやカヌーフリースタイルなど多目的に利用可能



### 人材育成の取組

#### 【習熟度・定期教育プログラム】



スタッフには訓練・研修を義務付け、河川に特化したカリキュラムを組んで教育を日々実施し、訓練記録を整備します。また、RAJ（日本ラフティング協会）に**安全のための定期的な監査**を受けます。監査結果を基に訓練・研修の継続的改善を行います。

#### 【河川に特化した訓練】

主な日常訓練		効果測定	
● 救助技法（溺者引き上げ、スローバック等）	● CPR & AED	● 救急法 等	
定期研修	座学	定期研修	効果測定
座学	レスキューの原則、施設におけるリスクの確認、レスキュー知識の確認（静水、流水、濁水）、コミュニケーション、CPR & AED、ラフト・カヌー構造	定期研修	理解度テスト
実施	施設におけるリスク、レスキュー（静水、流水、濁水）、スローバックの扱い方、ロープワーク、CPR & AED、漂流体験、ラフト・カヌー体験	定期研修	実地技術テスト



#### 【救助訓練】



### 施設、附属設備及び物品管理

多目的な利用に柔軟に対応する事で、施設を常に安全な状態に管理します。

#### 【日常作業】

- ◆ ポンプ絶縁測定の実施
- ◆ 軽微な修繕はその場で実施
- ◆ 物品は、データによる管理



#### 【定期作業】

#### 【大会開催等】

- ◆ 定期点検の実施
- ◆ 長中期修繕計画の策定・運用
- ◆ 警備員配置による安全確保
- ◆ イベント運営ノウハウの活用



【中長期修繕計画作成例】

#### 【警備員の配置】

